

第 15 回クリーンセンター連絡協議会 要点録

【日 時】 令和 5 年 7 月 12 日(水) 午後 6 時 30 分～ 7 時 50 分

【場 所】 プラスチック類資源化施設 多目的室

【出席者】

会 長：新石自治会

委 員：新石自治会 1 名 新井自治会 2 名 落川上自治会 2 名
百草園団地自治会 2 名 百草園自治会 1 名

事務局：日野市 5 名（環境共生部長兼環境共生部クリーンセンター長、環境共生部主幹、施設課長、ごみゼロ推進課長、ごみゼロ推進課課長補佐）

国分寺市 2 名（建設環境部長、ごみ減量推進課長）

小金井市 1 名（環境部長）

浅川清流環境組合 5 名（事務局長、事業課長、事業課事業係長、総務課長、総務課主幹兼総務係長）

【傍聴者】 3 名

【配付資料】

- ・ 次第 「第 15 回クリーンセンター連絡協議会 次第」
- ・ 資料 1 「プラスチック類資源化施設運転状況」
- ・ 資料 2 「北川原公園ごみ搬入路裁判に関する経過の報告及び違法性解消についての説明会」
- ・ 資料 3 「全国ごみ量ランキング」
- ・ 資料 4 「可燃ごみ処理施設運転状況」
- ・ 資料 5 「環境定点測定結果」
- ・ 資料 6 「可燃ごみ処理施設専門家委員会について」
- ・ 資料 7 「水銀測定値が公害防止基準値を一時的に超過した件について」
- ・ 資料 8 「次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について」
- ・ 資料 9 「令和 4 年度施設見学実績について」

【次 第】

1 開会

2 議事

(1) 日野市より

①プラスチック類資源化施設運転状況

<説明内容>

日野市より資料 1 に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員)：不燃ごみの搬出量だが「鉄・アルミ」だけが有効に使われていること

が見受けられるが、「残さ」の中には再利用可能な物は含まれていないのか。

(日野市):例えばプラスチックを間違えて不燃ごみに入れる方の割合がまだ2割ほどいる。そのプラスチックを資源ごみとして、工場の処理工程の中で取り出すことは、人力的、費用的にも難しく、「残さ」として焼却処理となっている。まずは、市民の方に分別の徹底を呼び掛け、資源にできるものは資源ごみとして捨てていただけるよう啓発をしていきたい。

②北川原公園ごみ搬入路裁判に関する経過の報告及び違法性解消についての説明会

<説明内容>

日野市より資料2に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委員):単独でごみを処理していた際には問題は無かったのに、3市で始めたら問題が出てきた。このような問題は、搬入路を設計する段階で分かっていたことではないのか。

(日野市):単独でごみ処理していた際は、浅川の堤防沿いの道路を使用していたが、新しい施設の際には多摩川沿いの道路を使用してほしいとの地元からの要望も踏まえ、限られた期間内ということもあり公園予定地内に搬入路を設置しても問題無いと市で総合的に判断をしたものである。

判決確定を受け、現在の違法状態を一刻も早く解消するため、まずは市民向け説明会を実施しているところである。

③全国ごみ量ランキング

<説明内容>

日野市より資料3に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委員):自治体の人口規模により集計が分かれているが、一人当たりのごみ排出量に差がありすぎる。データが誤っているのではないのか。

(日野市):こちらの集計は事業系ごみも入っているため、人口規模が大きくなればそれだけお店などの数も増えるので、ごみの排出量が増えてしまっているのだと思われる。

(委員):そうすると人口10万人未満だと約300グラム、10万人以上50万人未満だと約600グラムだが、差の300グラムは事業系のごみということか。

(日野市):環境省の調査結果であり、あくまで推測でしかないが、人口が多い町は一人暮らしの人も多いと思われ、そのような人がコンビニ等でお弁当など購入すればそれだけごみの排出量は増えてしまう。逆に、お

店が少ない地方等では家族が自宅でご飯を食べることも多いと思われる、事業系のごみが減るため、ごみの排出量が少なくなっていると考えられる。

(2) 浅川清流環境組合より

①可燃ごみ処理施設運転状況について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料4に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員)：車両台数とごみ量は、これは1台1台計量したものか。それとも1台当たり何トンというような概算か。

(組 合)：ごみを積んだ収集車が浅川の受付に来た際に車ごと重さを量り、ごみを捨て帰る際に再度車の重さを量っている。その差をごみの重量として集計している。

②環境定点測定結果

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料5に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

③可燃ごみ処理施設専門家委員会について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料6に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

④水銀測定値が公害防止基準値を一時的に超過した件について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料7に基づき説明を行うとともに、各市より資料7の取組状況の説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員)：医師会や農協等に通知は出したのか。

(日野市)：通知はまだ出していないが、会長等にアドバイスをいただきながら作成したい。

(委 員)：なるべく早く通知を出す等対策をしてほしい。

(日野市)：回収キャンペーンを前倒しで実施することも検討したい。

(委 員)：回収キャンペーンを10月から実施するとのことだが、水銀が出たからではなく、日頃から可燃ごみ処理施設で、実際にごみ処理に携わっている人達の意見をくみ取るなどして、皆で解決に向けた対策を考え

実施してほしい。

(会 長)：行政の方は、意見として受け止め、検討してもらいたい。

(委 員)：普段から水銀キャンペーンを行えないのか。(身近な図書館等で常時回収)

(委 員)：医師会の会議や事業所に市の職員が出向いて説明をした方が良いのではないか。

また、古い体温計や血圧計は高齢の方が持っている可能性が高いが、回収場所に行けない人もいると思うので、ごみ収集車に常時回収袋をつけたらどうか。

(会 長)：有害ごみの日に出せば、回収をしてくれる。

(委 員)：水銀は決められたところにしか出せないと思っていたので、自分はキャンペーンの際に交流センターに持って行った。

(小金井市)：もともと、有害ごみとは水銀が使用されていた、蛍光管や体温計、電池等がメインであったが、近年、発火事故を起こすリチウムイオン電池が目立っているため、少しわかりにくくなっている部分はあるが、各市ともごみカレンダーに書いてあると思う。

(委 員)：今回の水銀は、一般家庭からのごみか、事業者から出たのかはわからないのか。

(組 合)：わからない。

(委 員)：有害物質を一般市民に周知させるのはなかなか難しいと思うが、大きな目なわかりやすいPRができればよいのかなと思う。

(委 員)：今回混入した水銀の量はわかるのか。

(組 合)：わからない。

(委 員)：今回、1号炉と2号炉で連日出たが、関連はあるのか。

(組 合)：ピットに落とされたごみは、燃焼効率を上げるためかき混ぜているため、いろいろな所に入ってしまう、時間差で出てしまったと思われる。

3 その他

①次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について

<説明内容>

小金井市より資料8に基づき説明を行うとともに、各市よりごみ減量に向けた取組みについて説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員)：これから3市によるワーキンググループで検討が始まると思うが、ぜひこの連絡協議会の中で、ワーキンググループでどのような話をしたのか、またどのような課題を抽出したか等の報告をいただきたい。

(日野市)：近年の行政は、透明性及び情報公開を強く求められており、情報公開をしなければ見られないということではないが、情報公開の制度の中で出せるものは積極的に開示していきたい。

(委 員)：3市からごみ減量推進市民会議に人を出し、ごみ減量の検討をしてい

と思うが、3市でリンクした取組みができてきているのか。
(小金井市): 現在、ごみ減量推進市民会議の提言を踏まえ見学者用冊子の作成を
3市と組合で進めている。また、3市にある同じ系列のコンビニで
「手前取り」の取組みを実施したほか、可燃ごみではないが、コン
タクトレンズのケースの回収を3市で実施した。

②令和4年度施設見学実績について

<説明内容>

日野市より資料9に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

4 閉会

次回会議(予定) 令和6年2月17日(土) 午前10時00分～
プラスチック類資源化施設 多目的室

以上